

## シリーズ「応急手当」

### (その8)「出血」

#### (1) 真上から圧迫して止血

出血量が多いと命の危険があるため、出来るだけ早く止血しなければいけません。

出血しているところを見つけて、そこにガーゼやタオルを当てて、その真上から直接圧迫して止血します。救急隊が到着するまで押さえ続けます。

出血がおさまりにくいときは、圧迫位置が出血部位からはずれていないか、圧迫する力が弱くないか、確認して下さい。

以前は、三角巾(さんかくきん)などで手足の根元を縛ったり、体表から動脈が脈打っているのが分かるようなところを「止血点」とよんで押さえたりすることがすすめられていました。しかし現在では、これらの方法は訓練を受けた人以外はすすめられていません。

#### (2) 素手で救助しない

救助者が血液に触れて、B型肝炎ウイルスなどに感染する危険性があります。

救助者はビニール手袋をはめたり、写真のような食品用のビニール袋を手袋の代わりに使用して、止血を行いましょう。

